



キングブリッジタワーとプミポン橋

キングブリッジタワー  
プロジェクト  
(タイ)

大林組

タイの大手企業グループであるサハグループが、グループ企業やテナントの拠点として開発した高さ255メートルの超高層オフィスビル。チャオプラヤー川沿いのラマ3世地区に位置し、隣接するプミポン橋の主塔シルエットをモチーフにした象徴的なデザインで、地域との調和とランドマーク性を両立した。施工を担当したタイ大林にとってRC造として過去最高の高さを誇り、大林グループ全体でも最も高層の建築物となった。

地域との調和と象徴性を両立



地上151階、39階から張り出して配置されたスカイラウンジ

先進技術で施工プロセスを革新



プミポン橋とチャオプラヤー川を一望できるカフェテリア



高層階途中に設けられたリフレッシュスペースは、上階会議室ゾーンとらせん階段でつながる

**概要**

- ▷実施者—タイ大林
- ▷実施国—タイ王国
- ▷実施都市・地区—バンコク
- ▷プロジェクト関係者—サハキャピタルタワー（発注者）、アーキテクト49（意匠設計）、アーキテクチュラルエンジニアリング49（構造設計）、M&Eエンジニアリング49（設備設計）、TKスタジオ（外構設計）
- ▷実施期間—2022年1月—24年12月

設計コンセプトには「シナジーの精神」を掲げ、持続可能で高付加価値の建物を目指し、LEED（環境性能評価システム）認証やウェルネス認証であるFitwel 13つ星など国際的な環境認証を取得した。

建物性能の向上だけでなく、施工プロセスの革新も図り、施工段階から環境配慮や品質向上に関する取り組みを実施した。地上39階・高さ151階の位置には建物から約12階張り出し、幅約45m、最大厚さ約4・5mという大規模な跳ね出し構造のスカイラウンジを設け、その施工にはリフトアップ工法を採用した。これにより品質向上と工期短縮を図るとともに、施工時の安全性も高めた。また、設備工事のモジュール化を積極的に進め、環境負荷低減や省人化、施工品質の安定化、工程効率化につなげた。

先進技術の積極的な導入により、発注者の求める高品質で持続可能な高付加価値の建物を契約工期より3カ月前倒しで完成させ、全工期を通して無災害で竣工を迎えた。

